

岸連合自治会・岸地区福祉協議会
〒258-0112 足柄上郡山北町岸2061
発行責任者 渡辺 良孝
編集責任者 茂木 昇

岸地区を歩く 《 富士講に集う人々 》

空前の旅行ブーム・・・江戸時代

江戸時代には、「東海道中膝栗毛」をはじめ数々の浮世絵や名所旧跡の紹介本、旅の心得ガイドブック等々が出版されています。当時の庶民はこれらを手にしなが、日本各地において多様な旅を楽しんでいました。

享保三年（1718）の正月から4月15日までの農閑期の伊勢神宮参宮者は、42万7500人とあります。（伊勢山田奉行所記録より）通年では、およそ60万人と想定され、さらに「抜け参宮」等を加算すると、当時の人口1800万人の20～30人に一人が伊勢神宮に参拝していたと考えられます。

目を日本各地の神社仏閣、名所旧跡に転じますと、さらに多くの人々の動きが想定されます。まさに「江戸時代は、空前の旅行ブーム」であったといえましょう。このような状況を可能にしたのは、江戸中期以降の社会の安定と経済の発展、インフラの整備、そして何より人々の生活が向上してきたことが挙げられます。

私たちの先祖は・・・富士講に集う人々



私たちの先祖も、江戸時代から活発に全国各地に足を延ばしていたようです。地域の方々の話の中にも「伊勢講」「大山講」「富士講」という言葉がありました。

ここでは、昭和初期頃まで続いた「富士講」について紹介します。

この写真は、安政二年（1855）須走浅間神社元宮司小野様の庭に、川村岸講中より寄進された石燈籠です。「富士登山三十三度大願成就津田数右衛門(相州足柄上郡岸講中)」とあり、裏面には、岸9名、近隣23ヶ村の寄進に係わった村人の村名と名前が刻まれています。

参考文献
協力者



湯坂の津田家の庭先に残る石碑です。正面に「口辰妙見星」、裏面には「登山三十三度大願成就行年六十一才登行願主津田波之助明治二十七年一月大安日建之」とあります。

このような石碑は湯坂地区では20基近く残されており、町内はもとより、県西部の各市町にも数多く存在し、富士信仰が盛んであった事を伺わせます。

富士山登拝

講員は、月に一度定められた日に先達や世話人の家に集まり、祭壇を設け「お焚き上げ」を唱えながら、信仰心と講員相互の人間関係を深めていました。



富士山への登拝は、信仰を深める最大の修行であり、登拝を重ねることで大願成就がかなうと考えられていましたから、一連の行動は厳格な決まりに則ったものでした。

登山早朝、精進潔斎（水垢離）をし、行衣、数珠、金剛杖等々の身支度を整え、浅間神社にてお参りを済ませたのち登り始めます。荷は強力に預け、「六根清浄…」と唱えながら頂上を目指します。途中8合目の岩室に一泊し、翌朝、ご来光を仰ぎ頂上に向かいます。頂上では内院（噴火口）を拝し、散銭の後、帰路につきました。

各地から集まる参拝者を支えたのが「御師」といわれる、今でいう旅行業者でした。御師は、宿の手配はもとより、参拝に係わるすべての世話をしていました。登山期を過ぎると、檀家帳に基づき足しげく「壇廻り」に努め、関係の維持に努めていました。江戸期、須走には、17名の御師が小田原藩よりその身分を保証され、参拝者の世話に従事していました。

おし

山北町史 足柄の文化 小山町史 江戸の旅文化
須走浅間神社様 小野泉様(小山町) 津田佳之様 お話を伺った方々



シジュウカラ



メジロ



キジバト

昨年の熊騒動の最中、庭に素敵な装いの来客がありました。餌の虫を探しに木の上で目を光らせるシジュウカラ。果実が好物で、つがいでミカンをつつくメジロ。太い枝にとまり、気持ちよさそうに毛づくろいをするキジバト。同じような毎日でも、目を凝らしてみるとたくさんの発見があり、とても面白いものです。

澄み渡る青空のもと **どんど焼き**



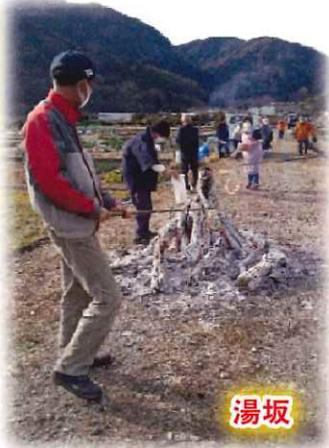
南原

1月9日(日)、各自治会で「どんど焼き」が行われました。コロナ禍の収束が見通せない中、感染防止対策を取りながら、多くの地域の方が訪れました。

正月飾りや、お礼のお焚き上げが行われ、今年1年の無病息災を願いながら、団子焼きを行う姿がありました。



宿



湯坂



越地



原耕地



斑目

より安全な通学路に 町長が現地視察 越地

11月4日(木)、湯川町長と町担当職員が、東光院付近の道路の現地視察を行いました。この視察は、越地自治会が町に提出した、通学路の安全確保のために、東光院付近の道路の拡幅を含めた要望を受けて実施され、岸連合自治会、越地自治会、宿自治会の役員が立会いました。

鈴木越地自治会長が、車の往来で子ども達が道端に身を寄せて通学している現状を説明し、通学路の安全対策と周辺の跡地利用などを要望しました。

視察中も車の往来で身を寄せざるを得ない中、湯川町長は「子ども達の安全のために出来ることはやりたい」と、担当職員に対応を指示していました。

近年、全国各地で通学路での事故が多発しています。岸地区にも安全対策が求められる通学路が多くあり、子ども達が安心して通学できるよう、少しずつでも対策が進められることを願います。



幼稚園児がいきいきセンターでアニメ観賞

11月10日(水)高齢者いきいきセンターで、岸と三保幼稚園の園児が2本のアニメ映画を観賞しました。「トイ・ストーリー」では、ハラハラドキドキして見入り、「トムとジェリー」では、2匹のイタズラと掛け合いに、終始笑いとお歓声に包まれました。鑑賞会は、岸連合自治会が多様な使用を目的に、映像設備を揃えたことから、その活用を岸幼稚園に呼び掛けて実現しました。

当日は、岸連合自治会3役と各自治会長が会場を準備し、映写後には園児とのふれあいの場がもたれました。

親子で正月飾りづくり

岸幼稚園で、12月21日(火)に親子参加の正月飾りづくりが行われ、越地自治会の鈴木敏正会長が正月飾りの説明と実演をしました。親子で材料を選び、思い思いの飾りを仕上げました。後日岸幼稚園からいきいきセンターに届けられた正月飾りは玄関に飾りました。

お正月には、親子手づくりの正月飾りが家族の話題となり、福を招き入れたのでは。



賛助会員企業紹介③

各企業の皆様の取材へのご協力に感謝申し上げます。
文及び写真は広報部で編集しました。掲載は順不同です。

(有)イケダオート

店長 渋谷隆一さん

創業からの板金業は半世紀近く、自動車整備工場を始めてから四半世紀の年月が過ぎました。

地区に愛される会社として、「買って安心・充実したアフターサービス」をモットーにしているそうです。



開成町店舗

隣接する小田原百貨店、コメリ等のお店が賑わいを見せる中、町外からのお客様の来店が増え、直ぐに対応できるよう普段から心掛けています。

現在、開成町の店舗で、自動車整備工場・展示場を増設し、点検整備、登録車・中古車等常時の展示を充実させて、事業の拡大を図っているとのことでした。

マツレキ(株)山北営業所 工事主任 佐藤秀一さん

社名のマツレキは、創業時の「松本瀝青」からきています。瀝青はアスファルトの意味で、仕事は道路舗装が主ですが、国土交通大臣の建設業許可を受けて土木工事一般を行っているそうです。本社は東京で、県内には山北の他に横浜・大和に営業所があります。



山北営業所は既に50年程になり、町内の仕事が中心の為、地元の建設業の方との関係は深く、「グループで現場を確実に仕上げる」



ことを第一に心掛けており、佐藤さんは山北育ちで、仕事上も人の繋がりに恵まれていると話されていました。

(有)杉本商事

LPG部責任者 木村 修さん

石炭やコークスの販売を経て、昭和34年山北ガソリンスタンドを開業、続いて岸にLPG部を開設しました。身近なプロパン屋さんとして、親しまれています。



ガソリンスタンド、LPガス・器具の販売と修理、台所・風呂場・トイレの工事とリフォーム、火災報知器の取り扱いもしています。

営業努力として、富士山の湧水とく「あごだし」の販売も行っています。



「安心・安全・即対応」に努め、感謝される言葉が励みだそうです。東日本大震災救援の経験から、災害時のガス器具点検の対応策を定めています。

(株)小田原百貨店

店長 菊地 薫さん

小田原市を中心に展開しているスーパーマーケットで、山北店は2014年3月(平成26年)に同敷地内の(株)コメリと同時にオープンしました。



店舗の看板・広告などは、「odawara100」を用いていますが、最近は店舗ブランドの「Pantry」(パントリー【食品貯蔵庫】)を使用しています。



同店では、地元の食材の活用や災害時の食料・飲料水の提供などで、地域に密着した信頼される店づくりにより、日々努力していきたいと話されていました。

あずみ苑山北

管理者 小田 誠也さん

平成18年9月の開所から15年が経過し、地域の介護施設として、利用する高齢者に憩いの場を提供しています。安心して利用できる施設・サービスを目指して事業を展開しているそうです。

当施設では、デイサービス・ショートステイ及び居宅介護支援のサービスを提供しています。

コロナ禍のため、面会は15分程度、行事等が制限されていますが、月2回程度のイベントは行っています。

コロナ感染拡大防止の為、ボランティアの方によるレクリエーションは取り止めているとのことでした。



岸郵便局

局長 尾崎 剛さん

昭和17年に開局し、今年で開局から80年を迎えるとのこと。

地元で唯一の金融機関として、「全てをお客様の為に」の精神で、顔の見える地域に密着した郵便、貯金、保険の3事業を行っています。



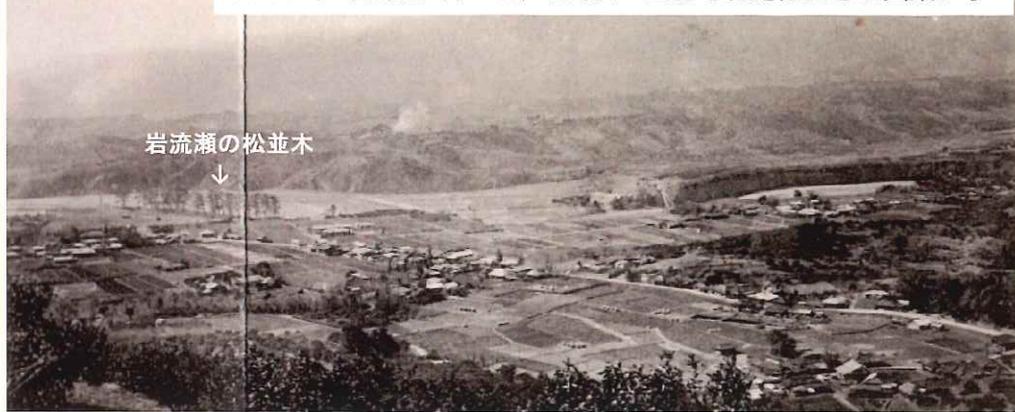
開局当時の局舎

現在、相模川以西の郵便局の副統括で、不在が多く、接客出来ないことが悩みだと話されていました。

昨年は郵政創業150年で、15年かけた企画の「足柄茶のカタログ」が郵政に採用されたそうです。また、町のスポーツ推進委員としても、地域採用された足柄茶の販売カタログに貢献されています。



1933年(昭和8年)の岸の風景 山北町制施行記念写真集より



岩流瀬の松並木

初めまして赤ちゃん



石田 紫(ゆかり)ちゃん

保護者 敏行・泉さん(斑目)

我が家に沢山の
幸せをありがとう。
毎日が宝物です! ♡

岸駐在所員家族協力者 宮下関子さんに県警本部長から感謝状



岸駐在所の宮下巡査部長は、岸駐在所勤務が10年になります。この間、地域の治安維持に邁進されてきたことは、地域住民の誰もが知るところで、その奮闘ぶりは過去5回の表彰に示されています。

昨年は山北交番の閉鎖により、管轄が山北地区の一部に広がり、昼夜を問わない警戒と見回りなどを含め、以前より多忙となり、体力作りに精進されています。

10月7日、駐在所員の家族協力者として、宮下巡査部長を支えてこられた妻の関子さんに、県警本部長から直接、感謝状が贈られました。

宮下巡査部長は感謝状について「警察の仕事は、地域の皆様のご協力が無ければ成り立ちません。今回、妻が感謝状をいただき、こうして表彰されたのは、地域の皆様のおかげでもあります。ありがとうございました。」と、照れ笑い交じりにお話しされ、お二人は喜びと共に今後も変わらぬ地域活動への思いを語られました。

情報コーナー ~町では町民の方の健康づくりを支援しています♪~ ポールウォーキングで健康づくり



ポールウォーキングとは

両手に専用ポールを持って歩くウォーキングスタイルで、スポーツドクターが開発した新しい健康法です。

ポールウォーキングをするとこんなに良いこと!

両手にポールを持つことで、上半身をしっかり動かすことができ、運動効率もアップします。同時に背筋も伸びて姿勢も良くなります。



↑このようにポールを持って歩きます

試しにポールウォーキングを体験したい!という方は

無料でポールを貸し出しています。お気軽に健康福祉センターへご連絡ください。

また、3/9・16 13:30~15:30に健康福祉センターでポールウォーキング教室を開催します。(要申込)ぜひご参加ください!



☆取り組みもうと思われる方、詳しく知りたい方は
健康福祉センター(保険健康課健康づくり班) 75-0822

第4分団の2名の方が表彰



佐藤圭悟さん(機関員) 尾崎峰幸さん

1月6日(木)の出初式は、コロナ禍により式典のみが実施され、第4分団の2名の方が表彰されました。

尾崎峰幸さん(団員)が勤続15年表彰、佐藤圭悟さん(機関員)が勤続5年表彰を受けられました。お二人は「これからも頑張ります」と、晴れやかな笑みで式典に臨まれました。

第4分団の皆様には、引き続き地域の安全と見守りをお願いします。

お知らせ・今後の日程

- 3月 6日(日) 岸連合自治会定例総会
- 3月 19日(土) 岸地区福祉協議会・青少年健全育成会合同総会
- 4月 3日(日) 八幡神社例大祭(予定)
- 5月 5日(木) 文命祭

編集後記

健やかな新年を迎えられたことと思います。本年も新型コロナの感染拡大が心配され、地域活動に様々な影響が予想されます。岸広報はどんどん焼きの取材で本年の活動を始動し、今号では富士講と昭和初期の岸の風景等を紹介しました。3月は新メンバーが加わり、地域の皆様の情報提供のもと、一層の発信に務めてまいります。